

令和3年(2021年)度 地域連携活動報告書

連携先名称：日本郵便株式会社

協定締結日：2018年10月12日

活動状況：継続中

連携先窓口：事業開発推進室デジタルビジネス戦略部 鈴木雄輔氏

活動資金：大学予算

担当教員(所属)：峯 洋子(農学部農学科)

活動体制(単位)：大学

関連教員(所属)：なし

活動目的：

1. 農業及び関連産業の活性化に向けた連携

- ・長野市の日本郵便信越研修センター内グラウンドに2018年建設したビニルハウスにおいて、砂栽培(トレファーム®)による高糖度トマト生産の実証試験を実施する。
- ・難易度が高く熟練の技を必要とする高糖度トマト生産を、農業未経験者でも実施可能にするためのシステムを構築する。

2. 人材育成に関する連携

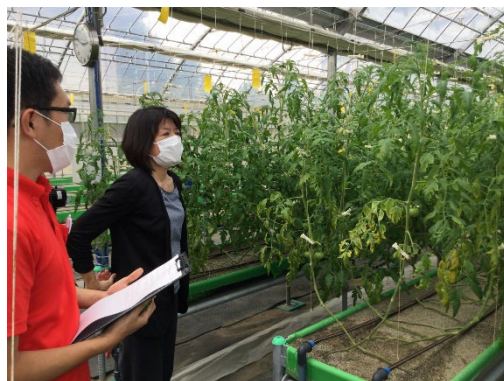
活動内容・成果：

1. 農業及び関連産業の活性化に向けた連携

- ・2020年より、プロジェクトの成果物である糖度8以上のフルーツトマト「さやまる」を日本郵便が販売
- ・2021年6月「さやまる」がおもてなしセレクション受賞
<https://omotenashinippon.jp/prize/selection/2021/2100-01-064/>
- ・2021年9月 ビニルハウスを7aから20aに増設し、生産量拡大
- ・2022年3月「さやまる」が野菜ソムリエサミット3月度銀賞を受賞
<https://www.vege-fru.com/doc/news/22/summit03.pdf>
- ・令和4年度園芸学会春季大会にて「トマトしおれ予測式によるしおれ直前自動灌水システムの実証」のポスター発表(2022年3月20日~21日)

2. 人材育成に関する連携

- ・長野農場での栽培試験における農学科学生の支援活動（2021年4月6日学生3名）



- ・長野農場にて栽培に関する指導（2021年10月10日）

課題・改善点：

- ・夏場の品質低下と裂果多発への対策
- ・しおれ直前自動灌水システムの実用化